

登録販売者試験

問題集

令和8年版

北海道・東北編

(北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)

◆厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き（令和7年4月）」対応

目次

□ 1. 令和7年度（2025年度）	問題	5
	正解&解説	46
□ 2. 令和6年度（2024年度）	問題	55
	正解&解説	99
□ 3. 令和5年度（2023年度）	問題	109
	正解&解説	154
□ 4. 令和4年度（2022年度）	問題	165
	正解&解説	209
□ 5. 令和3年度（2021年度）	問題	221
	正解&解説	266

● 本書の使い方 ●

①本書は、各都道府県が行う登録販売者試験のうち、北海道・東北ブロック（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島）で実施された過去5年分（令和7年度～令和3年度）を、年度ごとに〔問題〕と〔正解＆解説〕にまとめたものです。

②試験問題は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き」に沿って出題されています。なお、本書は「試験問題の作成に関する手引き」（令和4年3月作成、令和7年4月一部改訂）を元に編集を行っています。令和6年度～令和3年度の問題文に〔改〕とあるものは、出題時の「試験問題の作成に関する手引き」から改訂された内容となり、編集部で試験問題を一部変更していることを表します。

③「類題」の表記については、編集部が問題や選択肢の類似性を判断し付記しています（例えば、選択肢の内容が1つでも同様であるものは類題としています）。また、類題に関しては視認性を考慮して「問」を省略して表記しています。

例：〔令和7年度の問11〕と〔令和6年度の問14〕が類似している場合、令和7年度の問11に類題R6【14】、令和6年度の問14に類題R7【11】と表記。

④〔正解＆解説〕には公表されている正解と、「試験問題の作成に関する手引き」を参考に編集部が作成した解説を掲載しています。

各問ごと、選択肢ごとに解説しているため、わからなかつたり不正解してしまった問題は、解説の太字部分を参考に繰り返し解いていくことで苦手部分を集中的に学習できます。

また、関連する事項も合わせて学習し、対策することができます。

⑤公論出版ホームページ（<https://www.kouronpub.com>）、もしくは下記のQRコードから本書の解答用紙がダウンロードできます。マークシート式と記述式の2種類をご用意しておりますので、学習方法に合わせてご活用ください。



⑥本書発行後「試験問題の作成に関する手引き」の内容に改訂が入った場合には、公論出版ホームページ（<https://www.kouronpub.com>）にて、本書の内容に関わるものについて掲載します。ご確認ください。また、万が一本の内容に訂正等が生じた場合も、ホームページにてご案内いたします。



●受験ガイド●

1. 登録販売者とは

医薬品の販売業務は、薬剤師又は登録販売者でなければ行うことができません。登録販売者は、一般用医薬品のうち、第二類医薬品と第三類医薬品を販売できる資格です。

2. 登録販売者試験の受験資格

学歴、実務経験を問わないので、誰でも受験することができます。

3. 登録販売者試験について

●試験地

①毎年通常1回、各都道府県ごとに実施されます。令和7年度は、以下の7ブロックで行われました。ただし、年度によりブロックが変更になる場合があります。

〔北海道・東北〕 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島

〔北関東・甲信越〕 茨城・栃木・群馬・山梨・長野・新潟

〔南関東〕 東京・埼玉・千葉・神奈川

〔北陸・東海〕 富山・石川・岐阜・静岡・愛知・三重

〔関西広域連合・福井〕 滋賀・京都・大阪・兵庫・和歌山・奈良・徳島・福井

〔中国・四国〕 島根・鳥取・岡山・広島・山口・香川・愛媛・高知

〔九州・沖縄〕 福岡・大分・宮崎・鹿児島・熊本・佐賀・長崎・沖縄

②試験の日時・場所・申込方法等は、4月以降、各都道府県のホームページ等に掲載されます。

③どこの都道府県でも受験可能ですが（※）。また、1つの都道府県で合格すると、勤務地となる、どこの都道府県でも販売従事登録を受け、登録販売者として働くことが可能です。

※願書提出時点で当該都道府県に在住、通勤又は通学している人の受験に制限される場合があります。ご注意ください。

●試験出題内容

厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き」から、各ブロックごとに試験問題が出題されます。

マークシート方式の筆記試験で、全120問（午前2時間で60問、午後2時間で60問）で、その内訳は次のとおりです。

試験科目	手引き	配点	試験時間
医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）	1章	20点	午前 2時間（120分）
主な医薬品とその作用（40問）	3章	40点	
人体の働きと医薬品（20問）	2章	20点	午後 2時間（120分）
薬事関係法規・制度（20問）	4章	20点	
医薬品の適正使用・安全対策（20問）	5章	20点	
合計（120問）		120点満点	4時間

●合格基準

北海道・東北ブロックにおける配点は、1問1点とし、以下2つの基準の両方を満たすと、合格となります。

①総出題数（120問）に対する正答率が70%以上（84点以上）であること。

②試験項目ごとの出題数に対する正答率が40%以上（20点中8点以上、40点中16点以上）であること。

●本書籍に関するお問い合わせ・

本書の内容でわからないことがありましたら、**必要事項を明記の上、問い合わせメールアドレス（inquiry@kouronpub.com）**若しくは下記のQRコードからお問い合わせください。



キャリアメールをご使用の場合、（inquiry@kouronpub.com）の受信設定を行ってからご連絡ください。

●必要事項

- ①書籍名（年版・地域など）
- ②該当ページ数
- ③お問い合わせ内容
- ④お客様の氏名とフリガナ

●お問い合わせに関してのお願い

- ・電話でのお問い合わせは、受け付けておりません。
- ・お問い合わせは、**本書の内容に限ります。**
- ・本書発行日から1年を経過した場合、内容のお問い合わせはお控えください。
- ・回答までにお時間がかかる場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・必要事項に記載漏れ等があると、お答えできない場合がございます。ご注意ください。

令和7年12月 編集部

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- 期待される有益な効果（薬効）のみをもたらす。
- 用法用量や副作用の情報が適切に伝達される必要がある。
- 市販後にも有効性、安全性等の確認が行われ、リスク区分や承認基準が見直される。
- 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較して保健衛生上のリスクは相対的に高い。

	a	b	c	d
1.	正	誤	正	誤
2.	正	正	誤	正
3.	誤	正	正	誤
4.	誤	誤	正	正
5.	誤	正	誤	誤

類題 R6【2】・R5【1】・R4【1】・R3【1】

問2 次の1～5で示される非臨床試験のうち、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿った毒性試験として、誤っているものはどれか。

- 反復投与毒性試験
- 単回投与毒性試験
- 皮膚感作性試験
- 一般薬理試験
- 皮膚光感作性試験

類題 R3【2】

問3 医薬品の効果とリスクに関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- Good Clinical Practice (GCP) に準拠した手順で安全な治療量を設定することが、臨床試験（治験）の目標の一つである。
- 医薬品は、食品と同水準の安全性基準が要求されている。
- 投与量の増加に伴い、「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。
- 製造販売後安全管理の基準としてGood Vigilance Practice (GVP) が制定されている。

	a	b	c	d
1.	正	誤	正	誤
2.	誤	正	誤	正
3.	正	誤	正	正
4.	正	正	誤	正
5.	誤	正	正	誤

問4 機能性表示食品に関する以下の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

機能性表示食品は、事業者の責任で、科学的根拠をもとに、疾病に（a）の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして、国に（b）された商品である。

- | | a | b |
|----|----------|----|
| 1. | 罹患している者 | 許可 |
| 2. | 罹患していない者 | 届出 |
| 3. | 罹患している者 | 届出 |
| 4. | 罹患していない者 | 許可 |
| 5. | 罹患していない者 | 認定 |

類題 R3【3】

令和7年度（2025年度）午前 正解&解説

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 正解：3 (a. 誤：b. 正：c. 正：d. 誤)

- a. 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、そのすべては解明されていないため、必ずしも期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らず、好ましくない反応（副作用）を生じる場合もある。
- d. 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較すればリスクは相対的に低い。

問2 正解：4

医薬品毒性試験法ガイドラインに沿った毒性試験は他に、生殖・発生毒性試験、遺伝毒性試験、がん原性試験、依存性試験、抗原性試験、局所刺激性試験などがある。

問3 正解：3 (a. 正：b. 誤：c. 正：d. 正)

- b. 医薬品は、食品などよりもはるかに厳しい安全性基準が要求されている。

問4 正解：2

機能性表示食品は、事業者の責任で、科学的根拠をもとに、疾病に（a：罹患していない者）の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして、国に（b：届出）された商品である。

問5 正解：4 (c、d)

- a. 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化した購入者に対しては、医療機関を受診して医師の診療を受けるよう勧める必要がある。
- b. セルフメディケーションの主役は一般の生活者であり、一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが期待されている。

問6 正解：3 (a. 正：b. 誤：c. 正：d. 正)

- b. 医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。

問7 正解：3 (b、c)

- a. 使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先される。

- d. アレルギーを引き起こす原因物質は、アレルゲンである。

問8 正解：3 (a. 正：b. 誤：c. 正：d. 正)

- b. かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。

問9 正解：1 (a. 正：b. 正：c. 正：d. 正)

問10 正解：3 (a. 誤：b. 誤：c. 誤：d. 正)

- a. 小児は大人と比べて血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすく、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

- b. 保護者等に対して、成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような安易な使用は避け、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用するよう説明する。

- c. 乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、状態が急変しやすく、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくいため、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限（夜間等、医師の診療を受けることが困難な場合）にとどめるのが望ましい。

問11 正解：1 (a. 正：b. 正：c. 正：d. 誤)

- d. 医薬品の種類によっては、授乳婦が使用した医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することがある。

問12 正解：2 (a. 誤：b. 誤：c. 正：d. 正)

- a. 情報提供は、単に専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているか、などの実情を把握しながら行う。

- b. 一般用医薬品にも、使用すればドーピングに該当する成分を含んだものがある。

問13 正解：1 (a、b)

- c. 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののか、プラセボ効果によるものも含まれている。

- d. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 医薬品の本質に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 一般用医薬品であっても医療用医薬品と同様に、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- b. 医薬品は生命関連製品で、有用性が認められたものであり、使用には保健衛生上のリスクを伴わない。
- c. 医薬品は人の疾病の診断や治療に使用されるものであり、人の疾病の予防には使用されない。
- d. 一般用医薬品は、一般の生活者においては、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることがある。

1. (a、b) 2. (a、d) 3. (b、c) 4. (c、d)

類題 R5【1】

問2 医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 医薬品の市販後は、その有効性や安全性等の確認が行われない。
- b. 検査薬は、検査結果について正しい解釈や判断がなされなければ、適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。
- c. 登録販売者は、健康被害の発生の可能性がある場合のみ、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売してはならない。
- d. 登録販売者は、医薬品の有効性、安全性等に関して常に新しい情報の把握に努める必要がある。

	a	b	c	d
1.	正	正	誤	誤
2.	正	誤	正	正
3.	誤	正	誤	正
4.	誤	正	正	誤
5.	誤	誤	誤	正

類題 R7【1】・R4【1】

問3 医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. LD₅₀とは、動物実験により求められる50%致死量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。
- b. 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。
- c. 少量の医薬品の投与であれば、長期投与されても慢性的な毒性が発現することはない。
- d. ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準として、国際的にGood Clinical Practice (GCP) が制定されている。

	a	b	c	d
1.	正	正	誤	正
2.	誤	正	正	誤
3.	正	誤	正	正
4.	誤	正	誤	正
5.	正	誤	正	誤

類題 R5【2】・R4【2】

令和6年度(2024年度) 午前 正解&解説

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 正解: 2 (a, d)

- b. 医薬品は生命関連製品であり、その有用性が認められたものであるが、使用には、保健衛生上のリスクを伴うものであることに注意が必要である。
- c. 医薬品は、人の疾病的診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする。

問2 正解: 3 (a. 誤: b. 正: c. 誤: d. 正)

- a. 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる。
- c. 健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない。

問3 正解: 1 (a. 正: b. 正: c. 誤: d. 正)

- c. 少量の投与でも、長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合もある。

問4 正解: 1 (a. 正: b. 正: c. 正: d. 正)

問5 正解: 4

4. セルフメディケーション税制の対象となる一般用医薬品は、令和4年1月の見直しにより、スイッチOTC医薬品以外にも腰痛や肩こり、風邪やアレルギーの諸症状に対応する一般用医薬品が税制の対象となっている。

問6 正解: 3 (a. 正: b. 正: c. 誤: d. 正)

- c. 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品がアレルゲンになることがあり、思わぬアレルギーを生じることがある。

問7 正解: 2 (a. 誤: b. 誤: c. 誤: d. 正)

- a. 人体に直接使用されない医薬品であっても、使用者の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤り、副作用につながることがある。
- b. 解熱鎮痛薬を長期連用すれば、肝臓や腎臓などの医薬品を代謝する器官を傷める可能性もある。
- c. 一般用医薬品を長期連用することにより、精神的な依存がおこる場合もある。

問8 正解: 1 (a. 正: b. 正: c. 正: d. 正)

問9 正解: 1 (a, b)

- c. 「低下している」⇒「高まっている」。
- d. 外用薬や注射薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。

問10 正解: 4 (a. 正: b. 誤: c. 誤: d. 正)

- b. 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。
- c. 小児の誤飲・誤用事故を未然に防止するため、家庭内において、小児が容易に手に取れる場所や、小児の目につく場所に医薬品を置かないようにすることが重要である。

問11 正解: 5 (a. 誤: b. 誤: c. 誤: d. 誤)

- a. 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをプラセボ効果（偽薬効果）という。
- b. 時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）は関与していると考えられている。
- c. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）と不都合なもの（副作用）とがある。
- d. プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもあるが、不確実である。

問12 正解: 3

- 一般用医薬品は、医薬品医療機器等法において「(a: 医薬品) のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が (b: 著しくない) ものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく (c: 需要者) の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）」と定義されている。

問13 正解: 3

3. 医薬品は、適切な保管・陳列がなされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。

問14 正解: 5 (a. 正: b. 正: c. 正: d. 正)

- 問15 正解: 3 (a. 正: b. 誤: c. 誤: d. 正)
- b. CJDは、細菌でもウイルスでもないタンパク質の一種であるプリオントが原因とされた。
- c. 記述の内容に該当するのはスモン。CJDは、プリオントが脳の組織に感染し、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。

問18 成人女性が、ドラッグストア（店舗販売業）に来店した。かぜ様症状のため一般用医薬品を購入しようとしている。登録販売者が購入者から確認すべき事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 副作用の経験の有無
- b. 他の医薬品の使用の有無
- c. 発症時期
- d. アレルギーの経験の有無

	a	b	c	d
1.	正	正	正	誤
2.	正	誤	正	正
3.	正	正	正	正
4.	正	正	誤	正
5.	誤	正	正	正

問19 薬害に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a. 一般用医薬品の販売に従事する者は、薬害事件の歴史を十分に理解し、健康被害の拡大防止に関して、その責務の一端を担っていることを肝に銘じておく必要がある。
- b. サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設された。
- c. 薬害は、医薬品を十分注意して使用すれば起こり得ないものである。
- d. キノホルム製剤については、一般用医薬品として販売されていた製品がある。

	a	b	c	d
1.	正	誤	誤	正
2.	正	正	正	誤
3.	正	正	誤	正
4.	誤	誤	正	正
5.	誤	誤	正	誤

問20 薬害に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

1. スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れ、麻痺は上半身にも拡がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。
2. サリドマイド訴訟は、催眠鎮静成分として承認されたサリドマイドが原因で亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
3. HIV訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルスが混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
4. クロイツフェルト・ヤコブ病は、ウイルスの一種であるプリオンが脳の組織に感染することによって発症する。

類題 R6【15】・R4【19】

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

問1 正解：3 (a. 誤：b. 誤：c. 誤：d. 正)

- a. 医薬品は、人の疾病的診断、治療若しくは予防に使用されることを目的とする**生命関連製品**である。
- b. 医療用医薬品と比較してリスクは相対的に**低い**。
- c. 添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもあるため、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの情報提供が**必要である**。

問2 正解：2

新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品開発の国際的な標準化制定の流れのなかで、個々の医薬品の用量一反応関係に基づいて、(Good Laboratory Practice (GLP)) の他に、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿って、単回投与毒性試験、反復投与毒性試験、生殖・発生毒性試験、遺伝毒性試験、がん原性試験、依存性試験、抗原性試験、局所刺激性試験、皮膚感作性試験、皮膚光感作性試験などの毒性試験が厳格に実施されている。

問3 正解：2

(機能性表示食品)は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品であるが、特定保健用食品とは異なり国の個別の許可を受けたものではない。

問4 正解：4 (c、d)

- a. 健康食品は、あくまで食品であり、医薬品とは**法律上区別される**。
- b. 「特定保健用食品」は、個別に（一部は規格基準に従って）特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関する**国の審査を受け、許可されたもの**である。

問5 正解：1 (a、b)

- c. 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが**解明されているわけではない**。
- d. アレルギーは、内服薬だけでなく、**外用薬**によって引き起こされることもある。

問6 正解：4 (a. 正：b. 正：c. 誤：d. 正)

c. 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがあり、一度、薬物依存が形成されると、そこから離脱することは**容易ではない**。

問7 正解：4 (b、d)

- a. 解熱鎮痛薬と鎮咳去痰薬では、成分や作用が重複するが多く、作用が強く出過ぎたり、副作用を招く危険性が増すことがあるため、**併用は避ける**よう説明する。
- c. 医療機関・薬局から交付された薬剤を使用している場合、治療を行っている**医師若しくは歯科医師**又は調剤した**薬剤師**に確認するよう説明する。

問8 正解：1 (a、c)

- b. アレルギーは、あらゆる物質によって起こる可能性があり、医薬品の**薬理作用とは関係なく起こることもある**。そのため、薬理作用のない添加物が原因物質（アレルゲン）になり得る。
- d. 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、明確な自覚症状として**現れないこともある**ので、継続して使用する場合には、特段の異常が感じられなくても医療機関を受診したほうがよい。

問9 正解：1

2. 成人用の医薬品の量を減らして小児へ与えるような**安易な使用は避け**、必ず年齢に応じた用法用量が定められているものを使用するよう説明する。
3. 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であっても、乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、**状態が急変しやすく**、一般用医薬品の使用の適否が見極めにくいため、基本的には**医師の診療を受けることが優先される**。
4. 一般用医薬品であっても誤飲・誤用事故の場合は、想定しがたい事態につながる**おそれがある**。

問10 正解：4 (a. 正：b. 誤：c. 正：d. 正)

- b. 高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは**個人差が大きく、年齢のみから一概にどの程度リスクが増大しているかを判断するのは難しい**ため、高齢者の個々の状況に即して、適切に情報提供や相談対応することが重要である。

登録販売者試験問題集
北海道・東北編 令和8年版

■ 発行所 株式会社 公論出版
〒110-0005 東京都台東区上野3-1-8
TEL (販売) 03-3837-5745
(編集) 03-3837-5731

■ 定 價 1870円 (税込)

■ 発行日 令和7年12月

ISBN978-4-86275-351-9